

## 会 議 録

会議の名称	第8回宍粟市地域創生戦略委員会	
開催日時	平成29年7月28日（金）14時00分～16時20分	
開催場所	宍粟市役所本庁舎 3階 庁議室	
議長（委員長・会長）氏名	林 昌彦	
委員氏名	（出席者） 林 昌彦、三渡 圭介、玉田 恵美、 岡本 一也、田口 すみ子、山田 寛、 古根川 淳也	（欠席者） 長田 博、春名 千代、種谷 淳
事務局氏名	宍粟市 企画総務部：坂根部長、上長次長 地域創生課：西川副課長、原係長、前田主査	
傍聴人数	0名	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決定事項	<p>（議題及び決定事項）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱書交付</li> <li>3. あいさつ</li> <li>4. 委員長・副委員長の選任</li> <li>5. 報告・協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）宍粟市地域創生戦略委員会の所掌事務と開催予定（案）について</li> <li>（2）平成28年度 転出者・転入者向けアンケート調査結果について</li> <li>（3）最新の人口動態及びKPIについて</li> <li>（4）平成29年度 地域創生事業の取組状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度 宍粟市地域創生総合戦略 政策パッケージ</li> <li>・取組例①：宍粟市森林の家づくり応援事業/子育て応援・定住促進特設サイト</li> <li>・取組例②：「日本一の風景街道」創造事業</li> <li>・取組例③：生活圏の拠点づくり事業</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>6. その他</li> <li>7. 閉会</li> </ol>	
会議経過	別紙のとおり	
会議資料等	別紙のとおり	
議事録の確認（記名押印）	（委員長等） _____ ㊟	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
市長	<p>■ 1. 開会</p> <p>■ 2. 委嘱書交付 委嘱期間：平成 29 年 7 月 28 日～平成 31 年 7 月 27 日までの 2 年間</p> <p>■ 3. あいさつ 平成 27 年 12 月に計画を策定し、平成 28 年度から地域創生を進めてきたところですが、平成 29 年度は、その 2 年目ということで、本格的に計画を運用し、実行していかなければならない年です。 委員の皆様には、地域創生事業の検証や評価を加えていただきながら、計画をさらに有効なものとするためよろしく申し上げます。 九州北部での豪雨災害のように、いつどこで災害が起こるかわからない中、宍粟市は今のところ平穏ですが、基本的には安全・安心を基本としなければいけないと考えています。 未だ人口減少が続いており、政策を総動員しておりますが、特に子育て環境を整えていくこと、若者の定着を図っていくこと、そのためにも、仕事を創っていくことについて、重点的に取り組みを進めていこうとしています。 新聞で報道されていますが、市内の中学生や高校生が部活動などで頑張っている姿を見ていますと、将来のために大人たちがもっとしっかりしなければと、元気がでる思いです。 今年度、また来年度以降に向けて委員の皆様から意見をいただきながら、少しずつしっかり事業を進めていく必要があります。よろしく申し上げます。</p>
委員長	<p>■ 4. 委員長・副委員長の選任 委員長に林委員、副委員長に三渡委員を選任</p> <p>(委員長及び副委員長あいさつ) 前任期間の 2 年間は、地域創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）をまとめ、事業が進められていく中、事業の進捗管理について十分な議論ができず、委員会の年間サイクルについても課題を残していました。新たな任期となるこの 2 年間は、その課題について委員長としてできる限りのことをしていきたいと考えています。引き続きよろしく申し上げます。</p>
副委員長	<p>兵庫県全体で少子高齢化や人口減少が進んでいます。神戸市まで人口減少となっている要因として、やはり東京圏への移住が顕著に数値として現れている</p>

事務局	<p>からだそうです。微力ながら、この流れに歯止めをかける一本の杭となれるよう頑張っていきますので、よろしくお願ひします。</p> <p>■ 5. 報告・協議事項</p> <p>(1) 宍粟市地域創生戦略委員会の所掌事務と開催予定(案)について</p> <p>【資料1】について説明</p>
委員長	<p>戦略委員会の条例規定はかなり包括的な内容ですので、具体的にどうするかをここで協議して決めるということによろしいですか。</p>
事務局	<p>委員会で協議していただく内容や開催スケジュールに関して、協議していただきたいと考えています。</p>
委員長	<p>年2回の開催で、年度の早い時期にアクションプランの成果について検証し、9月から10月に次年度のアクションプラン策定に向けた提言を行っていくということですがいかがでしょうか。これまで開催の考え方がはっきりしていなかったもので、この考え方に基づいて進めてみて、不都合があれば再度検討するということがいかがでしょうか。</p> <p>また、総合戦略の期間が平成31年度までということで、平成30年度から次の第2次総合戦略の策定を進めていくスケジュールになっています。今の時点で意見をいただくのは難しいかと思ひますがいかがでしょうか。</p>
副委員長	<p>民間であれば、気が付いた段階ですぐに計画を見直して進めていきますが、行政のスピード感と少し違うところがあります。また、本日の委員会で、総合戦略の効果検証を行い、今後に向けて練り直していくことが必要かと思ひていましたが、9月から10月に開催する次回の委員会で、第2次アクションプランを立てないといけないということが、スピード感が早いのか遅いのか戸惑いながら話を聞いていました。</p> <p>全事業を検証していくことは大変難しい状況にあると思ひますが、他の委員も今の総合戦略の効果がわかりにくい部分があるかもしれません。</p>
事務局	<p>副委員長がご指摘のとおり、総合戦略の効果をしっかりと把握していく必要はありますが、今の段階で、全体の成果が定量的に把握できているか、また把握できるほど効果が上がっているかについては、はっきりとお答えできる状況にはございません。</p> <p>具体化しつつある取組も後ほど紹介したいと思ひていますが、効果検証をするにはもう少し時間を要すると思ひています。「これまでの効果を把握せずに、</p>

副委員長	<p>第2次アクションプランを作っていけるのか。」というご指摘もあるかと思いますが、皆様のご意見を来年度の予算へ反映していくためにも、資料のようなスケジュールで進めさせていただいてはどうかと考えています。</p> <p>しかし、効果の検証を行わずに今後の取組を進めていこうという考えはございませんので、いずれかの段階で、そのご報告もしっかりとさせていただければと思いますが、本日のところは、本年度にどういった取組を進めていこうとしているかを中心にご説明をさせていただき、それに対するご意見をいただければと思います。</p> <p>民間企業の経営計画というのは、ほとんど数値化されていますからチェックをしやすいのですが、行政の場合は数値化が可能なものと不可能なものがあります。数値を確認しながら次の手を考えていくのが民間の方法ですが、その辺には戸惑いがあります。</p>
事務局	<p>本来の目的である人口減少をいかに緩やかにしていくかについて意見をいただきながら、民間のように経営手法を変えて売上が上がるという訳にはいかない部分もありますが、この方法でなら効果があるのではないのかという検証はやっていく必要はあります。この後で報告する、森林の家づくり事業補助金についても、この制度が宍粟市内に定住する意思決定にどの程度繋がっているかなど数値に表すことができない部分もあり、検証はとても難しいところですが、委員の皆様のご意見を聴きながら、本当に役立っているかを検証し、制度の組み替えも柔軟にやっていく必要があると考えています。</p>
委員	<p>効果検証のために KPI（重要業績評価指標）があると考えています。KPI を達成すれば目的としている 2060 年に人口 33000 人が確保できるという前提で、KPI を見ていけば政策効果がわかるような仕組みになっているはずなので、KPI を細かに出していくことで検証を早めにしていくということではないですか。</p>
委員長	<p>今の段階で設定している KPI の数値がでない事業もあります。そこは、数値以外の情報をどれくらい出していけるかも課題かと思います。また、行政の事業サイクルは予算が中心になってきますので、事務局としては、来年度の予算を作り始める 9 月から 10 月くらいには開催しようということですね。そのために、前年度の検証をして提言していく必要がありますので、年度末までの事業結果を年度の早い時期にフィードバックしたいという趣旨かと思います。</p> <p>総合戦略については、タイミングが一致したというところもあるかと思いますが、宍粟市総合計画（以下「総合計画」という。）と一体で策定をしてきました。両計画とも人口減少を最大のテーマにしていますので、次の総合戦略も総</p>

事務局	<p>合計画を無視しては作れないと思いますが、どのように検討されていますか。</p> <p>総合計画の前期基本計画が5年間で平成28～32年度までとなっており、計画の実施状況を検証し、次の後期基本計画の5か年に繋げていきます。委員長が指摘されたとおり、人口減少対策が非常に大きな課題となりますので、総合戦略でも総合計画でも同じ課題を持ち、同じ目標に向かって進めていく中で、計画期間も近いことから、総合計画の後期基本計画と総合戦略をリンクし、1つの計画にすることも視野に入れて、平成33年度以降の計画策定について進めていきたいと考えています。</p>
委員長	<p>平成30年度に計画策定の準備を開始し、平成31年度は具体的な内容について議論していくスケジュールになると思います。今年度中にこの問題についても考え方を示していただければと思います。</p> <p>本日は、昨年度の実績を中心にして、次回の委員会でそれを受けて次年度に向けての考え方を検討するという位置づけで進めていきたいと思っています。</p>
事務局	<p>(2) 平成28年度 転出者・転入者向けアンケート調査結果について 【資料2】について説明</p>
副委員長	<p>以前に、子どもの小学校入学を前に転出先の学校に入れてやりたいということで山崎町から転出された方がいます。アンケート調査の転出理由にあがっていませんが、他地域との比較の中で、子をもつ親がその子の将来を考えて学力の高い学校を選択するというのが1つの原因としてあるのではないかと思います。宍粟市内の学力を上げていく必要があるのではないかと感じました。</p>
事務局	<p>3月議会でも全国学力調査について質疑があり、教育委員会では学力の向上も大切ですが、人として生きていく力を子ども達に育んでいけるような教育をこれから目指していく、これまでも目指していたという答弁をされていました。</p> <p>子どもの保護者が学力だけを望まれているかを十分に見極めていく必要がありますが、宍粟市ではこんな子どもに育てたいということを発信していく必要があるのかなと答弁を聞いていました。</p> <p>昨年の全国学力テストで宍粟市が少し低かったこともあり、話題になった課題ですが、学力とともに人としての力をつけてやりたいというのが教育委員会の思いとして発信したいと考えています。</p>
委員	<p>このアンケート調査は宍粟市独自のものですか。</p>

事務局	<p>宍粟市独自のアンケート調査です。</p>
委員	<p>私の所属している団体でも、アンケート調査を通じて他団体と比較し、優れているところや頑張らないといけないところを見つけていきます。また、他団体と同じ内容で別団体にアンケートをとって自分たちの立ち位置など状況把握をしています。他団体との比較ができるアンケートであれば、自治体同士の差や強み弱みが見つかるのではないかと思います。</p>
委員	<p>学童保育にいく子どもが多いが、教室内にすることが多いようです。自然の中で遊ばせることが大事ではないかと思います。智頭町の「森の幼稚園」で実践されていますが、園舎はなく、役場前に集合して天気が悪くても山に入っていきます。</p>
委員	<p>「森の幼稚園」は全国的にも注目されていて、短期留学させる取組もされている。やはり子育てしやすいまちというのは、今一番子育て世代に選ばれる要因として大きなポイントだと思います。また、先ほど、事務局から子育てに関して情報発信が課題だという話がありましたが、そこが一番重要だと思っています。【資料6-2】で支援制度をまとめた資料がありますが、こんなに多くの制度があるのだと初めて知りました。一般市民の方にもわかるように発信する方法を考える必要があると思います。</p>
委員	<p>今回のアンケートは、今後も継続的に実施される予定ですか。</p>
事務局	<p>今後も継続的に実施したいと考えていますが、今回、過去2か年の転出・転入者を対象として調査しましたが、それより遡るとなると再転出などがあり、回答率が悪くなると思います。また、同じ方に毎年調査票を送るのも迷惑になりますので、適宜タイミングを見計らって実施してゆきたいと考えています。</p>
委員長	<p>次回には、委員から提案のあった比較可能なデータがとれることに留意していただければと思います。</p>
事務局	<p>■(3)最新の人口動態及びKPIについて 【資料3】について説明</p>
委員	<p>人口動態における人口減少は想定内ですか。それとも今まで想定されていなかった状態になっているのでしょうか。</p>

事務局	従前の状況が続いている傾向にあります。
委員	平成 17 から 21 年までと平成 25 から 28 年の 4 年間で比較すると、人口減少の平均が 400～500 人から 600 人になっています。原因が何かは掴んでおられますか。
事務局	詳しく分析しなくてはならないと思いますが、平成 25 年以降で出生が少なくなっていると思います。また、平成 24 年は少し回復しているようには見えますが、これは住民台帳法の改正で外国人登録の方が計上され始めたので、数字上増えています。
事務局	<b>【資料 9-1】【資料 9-2】</b> について説明
委員	<p>取組状況や内容を全て検証していく時間はないですが、KPI を設定する上で、実績の上げ方に注意していただきたい。数字は信頼できるものだと思いますが、目標値に近づけるために数字を作りに行くことがあります。また、取組状況に書かれている内容も、中身がないのに形だけやったことにして体裁だけ整えておくということに陥りやすいので注意いただきたい。</p> <p>全ての事業となると記入するスペースもないので、「こういう仕組みを作りました」「こういう制度を作りました」という表現で終わっているの、仕組みがどのように効果的な運用がされるのか、どのような実績がでているのかなど、この資料だけではわからない。とりまとめをされている事務局は、そのあたりを注意された方がいいのではないかと思います。</p>
事務局	KPI は進捗管理や方向性を検討する議論の場での参考とするものだと考えていますが、各 KPI のモニタリングが可能な時期や政策を打ち出してから効果が発現するまでのタイムラグなどを考えていく内に、ご指摘のとおり、KPI 全体の体系を考え直していく必要があると考えています。今の数値はフォローしていくわけですが、進捗管理や方向性の検討に向けたより良い KPI の設定を、次回以降の委員会で提案させていただければと考えています。
委員	<p>最終的な目標である人口減少を止めるための最終的な数値目標なのであればこの KPI の数値はとても大事ですが、今の KPI を達成することが直接的に関係していないと思っています。</p> <p>例えば、ふるさと納税の寄付金額を増やしたことで住民税が減ってしまえば元も子もないので、反対の側面もあることを踏まえながら見直していった方が</p>

委員長	<p>いいと思います。</p> <p>数値が実感と一致しているかどうかが大事です。KPI だけ見ていれば大丈夫という絶対的なものではなく、どういう活用ができるかという目線で検討していただいた方がよい。各事業の実態に合う KPI を出してもらうことをお願いしたい。</p>
委員	<p>政治と市民に距離があります。子どもを増やしたいのであれば、安心して産み育てることができる環境が必要です。医療費は中学生までは無料化されていますが、教育費に関しても実施を検討していただきたい。大学まで行くのに1,000万円ほど必要となるので1人しか産まないのです。北欧の国では全てが無料です。日本でもそのくらいのことをやっていただきたい。月1万円程度を支援してもらっても生活費に消えていきますし、祝い金程度では追い付きません。全国の市町に先駆けて宍粟市からやってほしい。</p>
委員長	<p>教育の無償化については、国の政策でも検討されているようです。</p>
事務局	<p>■(4)平成29年度 地域創生事業の取組状況について</p> <p>【資料4～8】について説明</p>
委員	<p>事業を進めるにあたり地域創生課と各事業担当課との連携はどの程度できているのですか。例えば風景街道の創造について、仕事作りについては商工観光課との連携は欠かせないと思いますが、商工観光課で風景街道づくりについてどのような連携をされているのですか。</p> <p>地域創生課が地域創生の仕事をしているだけで、市をあげて事業に取り組む体制になっているのか疑問があります。資料の政策パッケージにもいろいろな事業があり、多くの担当課があると思いますが、お互い意見をだしながら事業を進めていかないと力を発揮しないし、空回りのような気がします。</p>
事務局	<p>地域創生課だけで何かできることではありませんので、まずは庁内にも方針をしっかりと示しながら、市長をトップとする地域創生本部会議で全庁的な意思決定を行っているところです。また風景街道づくりでは、事業を進めるために、20代の若手職員に集まってもらっていますが、そこで練り上げた事業コンセプトに多くの職員が共感してもらえれば、若手職員のネットワークや各部局内でも統一的な事業展開へと繋がっていくのではないかと考えています。加えて中堅層では、幹事会をつうじて既存の縦割型の指揮命令系統ではない、横断的な繋がりの場を作っていきたいと考えています。</p>

委員	<p>地域創生課がリーダーシップをとって、各部局がその意図を理解して市全体の人口減少を何とかするんだという形で、各事業で意識しながらやっていくのが理想だと思います。現実としては、各部局で事業を進めていて、地域創生の冠がついているだけなのが実態なのではという気がします。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、各部局の事業の中で、地域創生について奥深いところまで浸透させるための議論が深まっているかが課題と思います。そういった議論が足りていないので、そういった印象を抱かれるのだと思います。事業に対する議論の深掘りが足りていないのは、部局間に現実としてあり、今の弱みだと思っています。そのあたりは意識をして、各部局に入っていかなければいけないと考えています。</p>
委員	<p>今の活気のない宍粟市を活性化するには、宍粟にある資源を生かすことが重要です。田畑でとれる米や野菜の加工品を作る加工工場、山の木材を加工する家具やおもちゃ作りの工場を作るべきだと思います。西粟倉村では実際にやっていますので、今ある施設を利用することも含めて考える必要があります。</p>
副委員長	<p>本日の委員会では、雑誌でいえば目次を読んだところで、中身がわからない状態です。先ほど意見のあった事務局と各部局がどのように連携されているのか、そういったことを議論するのが委員会の役割かとも思いますが、今後の委員会でも目次を検討していただくだけでいいのか、そのあたりが気になります。</p>
事務局	<p>この委員会が各部局との接点になりますので、目次を整理することも必要ですが、組織の中で事業を深掘りして動かしていくのも大事になると思います。</p>
副委員長	<p>委員会の時間や回数の都合で言えないことがあります。言えなければ委員として役に立っているか、自分自身で考えてしまう。制約された時間の中でしっかり運営していこうと思えば、会議の在り方や時間のかけ方について方向性を決めていただきたいです。</p>
委員	<p>あらかじめ考えを練っておきたいので、事前に論点など教えておいてもらえれば、私も所属している団体での意見など、もう少し深い話ができるのかなと思いますので、今後お願いします。</p>
委員	<p>紹介になりますが、9月16・17日に宍粟移住・定住体験ツアーを実施します。今年度は2回予定しており、その1回目となります。姫路集合でフォレストス</p>

	<p>テーション波賀に泊まり、農業体験をしながら鷹巣東小学校で食事をして解散します。委員の皆様もぜひフォレストステーション波賀までお越しください。募集チラシを地域創生課と作成していますが、今回紹介のあった子育て応援・定住促進特設サイトを初めて知り、チラシへの掲載もできたのかと思います。行政に限らず隣の席で何の仕事しているのかわからないということがあります。もっと気楽にこの会でも話ができる空気をつくれたらいいと思います。</p>
副委員長	<p>体験ツアーの募集人数を教えてください。また、宍粟市民との交流などあるのですか。</p>
委員	<p>30人募集しています。ターゲットは子育てや起業に関心がある30～40代ぐらい。姫路発着になりますので京阪神の方で、イメージとしては新快速で来ていただき、そこからバスで移動し、宍粟を満喫していただこうと考えています。</p> <p>うち出し方を間違えると観光ツアーになってしまうので、その辺は十分検討したいと思います。</p> <p>宍粟市民との交流は、夜に予定しています。先輩移住者の方々と参加者の方々と夕食交流会をするのですが、できれば波賀町の方にも来ていただいて、地域の紹介をしていただきたい。移住者の方は、近所にどんな人が住んでいるかということが一番重要です。こんな暖かい人がいるのであれば移住してもいいな、と思える交流の場が作ればと考えています。</p>
副委員長	<p>以前、県産木材の産地見学会を京阪神から瀬戸内海沿岸の方をターゲットに日帰り毎年2回、15年間しました。1回に50人くらい参加者が来られるのですが、宍粟市まで来ていただくことの重大さを感じていました。体験ツアーの取組はとても素晴らしいと思います。</p> <p>宍粟市まで来てもらえると物凄く理解してもらえる。知ってもらえることが一番大事です。積極的に市内に呼び込んでくることは重要だと思います。</p>
委員長	<p>やはり人づくりだと思います。事業を通じて多くの人を巻き込みながら、次のリーダーを作っていかなければ、事業は継続しません。市民を巻き込んだ活動にしていくということです。そういう活動の中でうまくいったことや課題について、市民目線での議論をこの場でしたいですね。</p>
委員	<p>体験ツアーが9月なので、反省点などを次の委員会で議論して、次回に活かしたいと考えていました。1人でも移住者ができれば大成功だと思っています。こういったことを皆で考える場がほしいですね。ツアー行程にどう市民が関わってくれるかが重要なポイントだと思います。</p>

事務局	<p>委員会のスケジュールなど提案させていただきましたが、議論を深掘りしていくために必要な時間や回数を確保することが必要ということだったかと思います。委員長と相談させていただき、委員会の開催を年2回としていますが、それ以外にも、先ほど委員から提案のありました内容も含めて議論できることを、事務局としてもしたいと考えていますので、その議論を次の政策展開に繋げていくという位置づけで、回数も含めて調整させていただくということでしょうか。</p>
副委員長	<p>外から人を呼んで来てもらうにはどうしたらいいかの方法論など、もう少し深掘りすると面白い意見がどんどん出てくる可能性があります。今後の進め方について、委員長と相談して考えていただきたいと思います。</p>
委員長	<p>国は、このような委員会を設置して KPI を検証することを交付金の条件にしていますので、行政もそうしなくてはいけないというのがあって、それ以外に何をするのかについて、決められないというのが他の自治体においてもよくあります。</p> <p>通り一遍のことではなく、別のところに核心があるのではないかということですが、そのあたりさらに意見をいただきながら、例えば次回議論するテーマを委員から提案してもらうなど、そういったことも含めて検討させていただければと思います。</p> <p>次回については、そのことについて案が出てくるかと思いますが、開催時期は未定ということになります。それでも予算のタイミングがありますので、次年度に向けて一度は開催しますが、別のタイミングで開催することも検討させていただきたいと思います。</p>
副委員長	<p>委員会の方向性として委員長が言われた通りですので、回数を増やすか時間を延ばすか、そしてポイント絞り込んで議論をしていくということが大事だと私も思いました。皆さんもそう感じておられると推察します。今後とも様々なご意見を賜りますようお願いし、閉会とさせていただきます。</p>